

- Tilting Open-Hearth Furnace. *E. V. Tretia-kow, et al.* pp. 513~516
- About Oxidation of Molten Steel out of the Furnace. *N. S. Mikhailets.* pp. 517~519
- A New Method of Deoxidation and Desulfurization of Steel with Improvement of its Quality. *V. A. Skachko, et al.* p. 520
- Dependence of the Aluminothermic Process Temperature upon the Specific Heat. *V. A. Bogoliubov.* pp. 528~530
- About Rational Roll Pass Design for Rails. *A. M. Karpunin.* pp. 531~535
- The Rational Method of the Flat Ingot Fabrication. *I. D. Kuzema.* pp. 536~540
- A Statistical Method of Operation Control in Tube Production. *I. M. Ludensky.* pp. 541~543
- Application of Roller Passes at Rolling Large Sections. *M. V. Shuralev, et al.* pp. 544~547

国内最近刊行誌参考記事目次

—学協会誌—

日本金属学会誌 21 (1957) 9

転り軸受用滲炭鋼 (I) 残留応力の測定ならびにその

- 変形態におよぼす影響. 吉田 亨...528~531
- Ms 点以下の温度における鋼の恒温度変態について. 大和久重雄, 外...531~535
- 鋼材のひびわれ疵防止に関する研究 (I) 加熱条件, スケール生成量および鋼材中の不純元素がひびわれ疵におよぼす影響. 大竹 正, 外...536~540
- 鋼線の残留応力 (I) 西岡多三郎...540~544
- アルミニウム被覆鑄鉄の耐酸化性および耐成長性について. 嵯峨卓郎, 外...548~551
- 鑄物 29 (1957) 10
- カルシウム鑄鉄の研究 (I) 溶鉄に対するカルシウムの作用. 丸山益輝, 外...694~702
- キューボラの羽口の研究 (II) 突出水冷羽口. 石川 潔 外...702~707
- 計測 7 (1957) 10
- 鉄鋼工業における計器操業. 角田辰亥, 外...570~575
- 会社刊行誌—
- 日立評論 39 (1957) 10
- 高炭素—高バナジウム高速度鋼の切削耐久力におよぼす Zr および B+Ti の影響. 小柴定雄, 外...1197~1199
- 耐火材料 No. 76 (1957)
- 電気炉における塩基性耐火物の使用状況. 高良義郎...14~20

1359 頁よりつゞく (特許記事)

特許出願公告 (昭和 32—10—7)

- 昭 32—8601 廻転鑄解製鍊炉 (坂本源一) 同人
坩堝用炉体をギヤ機構により廻転自在に設置すると共に坩堝の外周に風室を設け, かつ風室と炉内を上下数段に穿つた風孔により連通し風室内において風孔部に空気取入用の受体を設け, さらに風室の下部に連管を固着し, これを送風管に対し廻転自在に装着したもの.
- 昭 32—8604 鉄線, 鋼線, 鉄合金線等の製造方法 (日野芳三) 南海製線鋼索KK
線を液体研磨したのち引伸す方法.
- 昭 32—8605 鉄類にアルミニウムを溶着被覆する方法 (大沢久雄) 石田立雄
(略)
- 特許出願公告 (昭和 32—10—18)
- 昭 32—8855 鑄鉄炉羽口の自動風量調節装置 (島田要吾) KK日立製作所
外筒内に内筒を回転自在に保持し, かつ内筒に復元用のバネを作用させ内筒と外筒との円周上に空気取入口を設け, 内筒に設けた羽根が空気取入口から吹込まれる空気の風圧を受けて内筒を回転させ空気取入口の開口面積を変化させるようにしたもの.
- 昭 32—8858 衝撃によつて表面硬度が大きくなる鑄接鋼 (ウイリアム・トマス・デイロング外1)
ウエルクツオイグマシネンフアブリーク・エールリコン・ビュールレ・ウント・コンパニー (瑞西)
(略)
- 昭 32—8859 共晶黒鉛組織或いはこれと類似の微細黒鉛組織を有する鑄鉄鑄物を製造する方法 (沢村宏) 同人
(略)
- 昭 32—8860 黒心可鍛鑄鉄の製造法 (久保 要) 同人
密閉容器中において白鉄鑄物を加熱しその地鉄中の酸素を分離または遊離し該密閉器内を減圧乃至真空中に短時間連通せしめて分離炭素を排除せしめた後 500~600°C で焼鈍する方法.